

山口大学の遺跡

～吉田遺跡展～



開催場所： 国立大学法人山口大学
埋蔵文化財資料館

開催期間： 平成 18 年 4 月 3 日 (月)

～
平成 18 年 9 月 29 日 (金)

開館時間： 午前 9 時～午後 5 時

休館日： 土・日曜日、祝祭日

※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡
ください (団体のお客様に限ります)

入館料： 無料

吉田遺跡の位置と環境

山口大学吉田キャンパスが所在する山口盆地は、中央部を南西に流れる榎野川によって形成された沖積平野と周囲の山地部分で構成されており、盆地としては山口県下で最大の規模を誇ります。榎野川の周縁部には多数の遺跡が存在しており、旧石器時代から近世まで約80カ所にのぼる遺跡が確認されています。

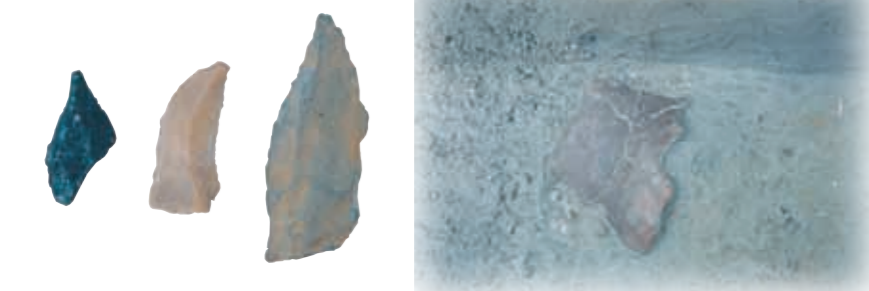
吉田遺跡は盆地の南東縁に位置し、榎野川左岸の沖積平野と、姫山・今山から派生した丘陵上にまたがって立地しており、吉田キャンパスの全域を含んでいます。キャンパス内での立地状況を見てみると、低丘陵地である東地区（大学本部～学生会館～第2学生食堂～果樹園～農学部附属家畜病院）と、沖積平野である西地区（教育学部～遺跡保存公園～グラウンド）に分けることができます。

これまでの発掘調査により、吉田遺跡は旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが確認されています。その中でも、弥生時代から古代にかけては榎野川左岸における中核的な集落遺跡であったものと推測されています。

旧石器時代から縄文時代

吉田遺跡の歴史は、今から数万年前の後期旧石器時代にさかのぼります。吉田遺跡ではこの時代の遺構は確認されていませんが、遺跡保存公園調査区と農学部連合獣医学科棟調査区でナイフ形石器や尖頭器〔せんとうぎ〕が出土しています。いずれも周辺の丘陵地から流れ込んだ状況で出土していますが、吉田遺跡周辺が旧石器人の活動空間であったことがわかります。

縄文時代になっても、縄文時代中期をさかのぼる遺物はわずかしか発見されていません。しかしながら、後期・晩期になると徐々に人類の活動痕跡が見られるようになります。後期のものとしては、陸上競技場の公共下水道施設調査区で河川跡が発見されています。晩期のものとしては、農学部連合獣医学科棟調査区とメディア基盤センター棟調査区、サッカー場屋外照明施設調査区で河川跡が、教育学部附属養護学校調査区では土壌が発見されています。この内、メディア基盤センター棟調査区では幅30m以上の河川のほとりに、水を飲みに来た小動物を捕まえるためのものと考えられる落とし穴が発見されており、注目されています。



ナイフ形石器と尖頭器



陸上競技場公共下水道設備調査区の河川跡から出土した縄文時代後期の土器



メディア基盤センター棟で発見された落とし穴



落とし穴の想像復元図



山口盆地と吉田キャンパス



教育学部増築調査区で発見された弥生時代後期の竪穴住居跡群



遺跡保存地区調査区で発見された火災にあった竪穴住居跡



「須玖式」系土器

吉田遺跡から出土した弥生時代の遺物

石砲丁

石鎌

分銅形土製品

古墳時代

古墳時代になると、遺跡保存公園周辺の集落は縮小し、廃絶するようです。それに替わって、低丘陵部に位置する学生会館前庭部（遺跡保存地区）周辺が集落の中心地となります。第2学生食堂と学生会館前庭部の調査区では、古墳時代中期の竪穴住居跡が6棟発見されています。住居内にはカマドが設けられており、弥生時代からの変化が見られます。また、学生会館調査区では同時期の井戸が発見されており、当時の生活空間の広がりを感じることができます。

学生会館前庭部周辺では、後期の住居跡などは未だ発見されていません。しかしながら、隣接する本部2号館調査区からは、該当期の土器や祭祀に用いたと考えられるミニチュア土器、滑石〔かっせき〕製模造品などが出土しています。これらのことから、後期にも周辺地に集落が存在していたもの推定されます。一方、家畜病院から榎野寮（女子寮）にかけての飼料園では、後期前半の円筒埴輪片が採集されています。この周辺では、昭和25年（1950）に勾玉が採集されたと伝えられており、また昭和42年（1967）までは埋葬施設の一部と推定される石材が露出していたそうです。飼料園周辺には古墳が存在する可能性が高いと言えます。



第2学生食堂調査区で発見された古墳時代中期の竪穴住居跡

（※奥の凹みがカマド）



盾（たて）

円鏡

斧（あ）

鏃（やじり）

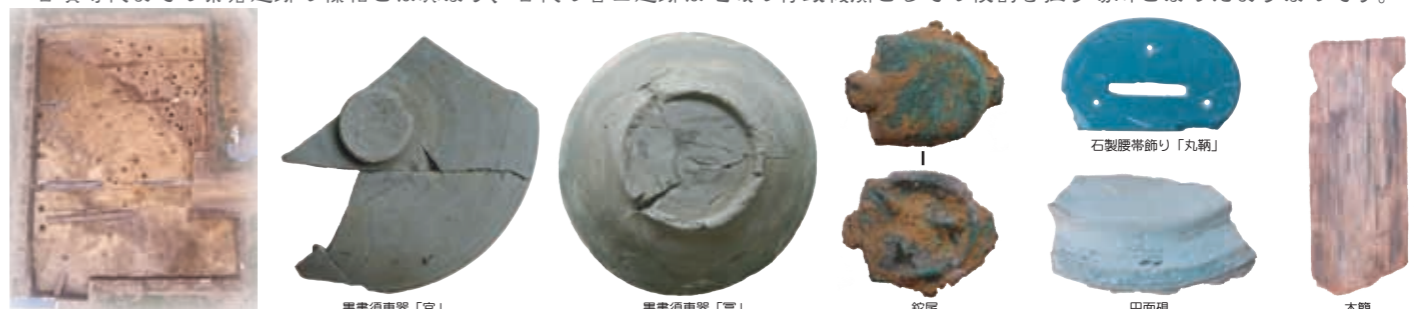
本部2号館出土の滑石製模造品

古代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）

古代にいたると吉田遺跡の性格は大きく変貌するようです。この時代の遺構は、低丘陵部である東地区に集中して発見されています。農学部解剖実習棟調査区では、河川跡とともに大型の掘立柱建物跡が発見されました。河川跡の埋土からは、「官」の墨書のある須恵器や緑釉陶器、六連式製塩土器などの「官衙〔かんか〕（古代の役所）」の存在を暗示する遺物とともに、金属の精錬に用いられた鞆〔ふいご〕の羽口〔はぐち〕、銅鋳石、鋳滓、そして役人の制服として使用された腰帯金具である蛇尾〔だび〕の未製品が出土しています。このような状況から、調査区周辺に金属製品をつくる工房が存在していた可能性が高いと考えられます。また、解剖実習棟に隣接する総合研究棟調査区でも、この河川跡の延長部分が発見されており、埋土からは円面硯〔えんめんけん〕（円形のすずり）や墨書土器、製塩土器など、やはり官衙と関連の強い遺物が出土しています。

この両調査区とはやや離れた位置になりますが、学生会館前庭部周辺でも古代の遺構や遺物が発見されています。学生会館調査区では、古代の遺構としては井戸が発見されたにとどまっていますが、遺構面を覆う土（遺物包含層）からは、「冨」の墨書のある須恵器や緑釉陶器、円面硯、木簡、腰帯飾りである石製の丸鞆〔まるとも〕などが出土しています。一方第2学生食堂調査区では、平安時代前半期に築かれた南北方向の長い溝（最大幅約5m、総延長50m以上）が発見されています。東側には掘立柱建物跡が数棟確認されていることから、この溝は何らかの施設（官衙関連である可能性が高い）の西域を区切る区画溝と推定されます。

古墳時代までの集落遺跡の様相とは異なり、古代の吉田遺跡は地域の行政機関としての役割を担う場所となったようです。



農学部解剖実習棟調査区の河川跡・掘立柱建物跡

墨書須恵器「官」

墨書須恵器「冨」

蛇尾

円面硯

木簡

吉田遺跡から出土した「官衙」の存在を示唆する古代の遺物群

山口大学吉田キャンパスマップ

- ①埋蔵文化財資料館
- ②遺跡保存公園
- ③学生会館前庭部（遺跡保存地区）
- ④学生会館
- ⑤本部1号館
- ⑥本部2号館
- ⑦第2屋内運動場
- ⑧図書館
- ⑨メディア基盤センター
- ⑩第2学生食堂
- ⑪教育学部
- ⑫第1学生食堂
- ⑬榎野寮
- ⑭家畜病院
- ⑮総合研究棟
- ⑯農学部解剖実習棟
- ⑰農学部連合獣医学科棟

中世（鎌倉時代・室町時代）から近世（江戸時代）

鎌倉時代から室町時代中頃（12世紀後半～15世紀）にかけての吉田遺跡の状況は、残念ながら不明確と言わざるを得ません。しかしながら、大学会館調査区から該当期の輸入陶磁器（龍泉窯系青磁）が大量に出土しており、また畿内からもたらされたと考えられる瓦器〔がき〕などが出土していることから、古代に引き続き大学会館周辺に官衛的な施設が存在していた可能性が考えられます。また鎌倉時代の初頭、源頼朝の命により平重経が現在の平川地区西部（当時の恒富保）の地頭職として補任します。その後恒富保は恒富・吉田の両地区に分けて子孫に譲られ、吉田の地を継いだ子孫が「吉田氏」の祖となるのですが、もしかすると大学会館出土のこれらの土器類は吉田氏の館の存在を暗示しているのかもしれませんが。

室町時代後半（16世紀）から江戸時代（17世紀以降）にかけては、明確な集落跡が発見されています。本部2号館調査区では、16世紀後半から18世紀にかけて長期間継続したと推定される屋敷跡が発見されています。この屋敷跡では、屋敷地を取り囲む溝の内側に多数の柱穴が存在しており、同じ敷地に建物を何度も建て替えていることがわかります。また、建物に近接して設けられた井戸や屋敷墓も発見されており、当時の農民層の生活空間を推定する上で貴重な資料となっています。

メディア基盤センター棟（旧教養部複合棟）調査区では、17世紀のものとして推定される掘立柱建物が2棟、井戸2基、埋甕遺構が3基発見されています。埋甕遺構とは、土を掘り窪めて甕を設置している遺構のことです。埋甕の用途については、便器や肥溜めの用途、水や調味料、穀物や保存食などを貯蔵する用途、埋葬用の棺としての用途などが考えられています。この調査区の埋甕遺構は、掘立柱建物の横に並んだ状態で発見されました。用途に関しては不明ですが、埋甕に付属する施設が見られないことから、屋外に野ざらしで設置されていたようです。

この他にも第2屋内運動場調査区や本部裏給水管布設地調査区では、江戸時代から近代まで使用されたと考えられる用水路が発見されています。用水路の中からは、江戸時代後半から明治時代初頭（18世紀中頃～19世紀後半）にかけての陶磁器類が大量に出土しています。これらの調査成果から、室町時代後半から江戸時代にかけての吉田遺跡は田畑に囲まれた農村であったことがわかります。



本部2号館調査区で発見された室町時代末から江戸時代中頃にかけての屋敷跡



屋敷を取り囲む溝から出土した瓦質土器火鉢



屋敷を取り囲む溝から出土した瓦質土器播鉢



本部2号館調査区で発見された室町時代後半の井戸



井戸から出土した土師器皿と銅銭（宋銭）



メディア基盤センター棟調査区



メディア基盤センター棟調査区で発見された井戸



メディア基盤センター棟調査区で発見された埋甕